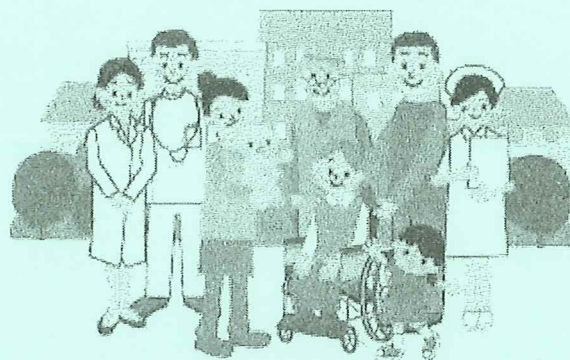


藤崎中央小学校



思わなかったけど、体験をした今は、小さく細かい作業が、お年よりの方にとっては大変だというところがよくわかりました。小学生のぼくたちにとってはおかんたんなこと、年を重ねていくと、不便になつたりつらくなつていくのだと実感できました。

その後、老人ホームの「さんふじ」をほう問し、直せつお年よりの方の生活を見たり、交流したりする学習がありました。しせつの中を見学すると、高齢者の方が安全にすごせるように様々な工夫がありました。

しせつの方の説明の中で、印象に残っているのが、食事についてでした。年をとってくると、食べ物をおかんたり、飲みこんたりする力も弱ってくるので、食べやすいソフト食というのを作っていたり、もつと飲みこみやすいミキサー食というのを作ったりしていると知りました。それも、しせつに来ているお年よりの方一人一人に合わせて作っていると思えました。

交流の時間になると、大々ほほールに、大々いのお年よりの方が集まってきました。お年よりの人

数の多さに、ぼくは少しおとろき
ました。その時、
「こんなにもたくさんの人をお世
話するなんて、介護の仕事は大
変な仕事だね」
と思いました。
実は、ぼくのおばあちゃんも、
以前ボランティアで「さんふじ」
にお手伝いに行ったことがあると
いう話を聞きました。一週間に二
回ぐらい行き、食事や身の回りの
お世話をしたそうです。食事の時
は、静かに食べる人さえあれば、
に入らないと大声を出す人もいた
そうです。また、お風呂に入る時

に、着がえの手伝いをしたり、か
みをわかってあげたりしたそう
です。
「さんふじ」をほう問したあと
におばあちゃんからこの話を聞き、
（人の役に立つことをしていて、
おばあちゃんはずいぶんあじ
と思ひました。ぼくも高齢者ぎじ
体験をして、年をとると字が読め
づうかたり、歩くのち大変にな
るのを実感しました。だからぼく
もいつかおばあちゃんのように、
ボランティアでお世話をしてみたい
です。そして、交流した時のよ
うに、おじいさんやおばあさん

ちを笑顔にする活動をしてみたい
と思いました。



みなながすごしやすい町

藤崎中央小学校 四年

菊池 龍伸

みなさんは「福祉」って何た

ろうと考えたことがありませんか。

ぼくは、学校で勉強するまで、こ

の言葉を知りませんでした。「福

祉」とは、(1) さんの(2) らいを(3)

よあせにすること、(4) だと、(5) 社会福

祉協議会の方に教えてもらいまし

た。さうして、この「福祉」とい

言葉を知ると、言葉若や体に障が

いがある方などを手助けすること

だとイメージする人が多いと思

いますが、実は少し違います。言

令者や障がいのある方にとって

「しやすいこと、安全、安心であ

る」ということは、そこに住む地

きの人たちに、とても「すごしや

すく、安全、安心だ」ということ

になります。つまり、「福祉」は、

みんなが「あやせ」にすることだ

と知り、ぼくは「てきい言葉だ

と感じました。」

ぼくには、九十才くらいになる

おばあちゃんがいいます。一緒

にはくらしていませんが、時々、

老人ホーム「さんふじ」におばあ

ちゃんと一緒に会いに行きます。

年のせいか、あまり話したりする

ことはできませんが、ぼくが会い
 に行くとき、
 たつ。
 とよんで、笑顔になります。是こ
 しが弱、ているので、立つ時もす
 ある時もゆつくりで、何かにつか
 まらなければ動けません。長く歩
 くこともおぼつかしいので、移動す
 る時は車いすを使います。ぼくも
 会に行つて車いすを押してあげ
 ます。その時は、ひいおばあちゃん
 人がぶつくりしないようにやさ
 しくゆつくり押してあげるように
 気をつけています。
 また時々ひいおばあちゃんが

自分の家にもどってくることがあ
 ります。もどってくる時、ぼくの
 家族も会いに行ったりします。自
 分の家にいる時のひいおばあちゃん
 には、うきふじにしている時より
 もやさしい表情をしています。
 (やっぱりひいおばあちゃんも、
 自分の家が一番リラックスでき
 るんだな。)
 とぼくは感じました。きっと、大
 好きなお人歌をテレビで見ている
 からかもしれない。
 十一月の末に、ぼくたちは「さ
 んふじ」へ訪問することになりました
 した。その話を先生から聞いた時、

(ふさしふりにひいおばあちゃん
 に会えるな。ぼくがとつせん学
 級のおんなと行くと、びっくり
 するかな。)
 と思ひました。
 ーさんふじーへ訪問すると、し
 せつの中のことをくあしく説明し
 てもらいました。しせつを利用し
 ている高齢者の方たちが使いやす
 いように鏡の角度がなめになつ
 ていたり、転んでけがをしないよ
 うにたぐさんの手すりもついてい
 ました。また、グールプホームで
 くらしている人たちは、料理の手
 伝いをするなど、自分でできるこ

とはできるだけ自分たちでやるよ
 うにしている。聞き、何でもやっ
 てもらおうわけではないのたと知り
 ました。
 この他にも、目の不自由な方が
 利用する白いつえのことや、食事
 の時は時計の針の位置で、ご飯や
 おろ汁、おかずの場所を伝えてあ
 げるなど、たくさん教えてもらい
 勉強になりました。
 ーさんふじーには時々行つてい
 たけど、今回あらためてしせつの
 エキヤ働いている方たちの思いや
 りを知ることができて、ぼくのひ
 いおばあちゃんには幸せだなと思ひ

ました。
きつて、こんなふう
に工夫をし
たり思ひやりを
もってせし
たり
するこ
とで、みんなが
すこしやす
い所になるの
かなと思ひ
ました。



で
す
さ
ら
に
、
自
分
が
で
き
る
こ
と

な
ど
と
車
い
す
の
動力
を
伝
え
た
り
し

ました。
 今度は、自分が高齢者役をやり
 ました。両うでに五キログラムの
 重り、両足首にハキログラムの重
 りをつけ、両ひじ、両ひざにはサ
 ポーターもつけました。これだけ
 でもだいたい動きがらいいのに、しら
 に首にもサポーターをつけ、首か
 うぶら下がつているバンドをひざ
 のフックに引っかけました。する
 と、こしが曲がった状態になり、
 ますます身動きがとりづらくなり
 ました。加えて、手ぶくろを二枚
 重ねてはき、前が見えにくい特別
 なメガネもかけました。

全身のいもむびがき、いざ動
 いてみると、ぼくは開始三十秒ほ
 どで息があらくなりました。ちよ
 うど足を痛めていたこともあり、
 予想以上に歩くのがつらく、階段
 をのぼったところでダウンしてし
 まいました。
 そこで、歩くのはやめ、車いす
 に乗り、手助け役の人に押しても
 ういしました。体験が終わるころに
 は汗びっしょりになっていました。
 思わず、
 「苦しい。」
 という言葉が出ました。体につけ
 た重りやサポーターのせいで、少

し働くだけでもつらくて、でも自分からは周りの友達に
 「苦しいから助けて」
 とはなかなか言えませんでした。
 ダウンした時に、友達が
 「碧井さんは足を痛めてるから」と
 フォローしてくれた時、気持ち
 がほっと楽になったのを今でもよく
 覚えています。
 ぼくは、高齢者役をやった時に、
 改めて社会福祉協議会の方が話し
 てくださった。
 「自分ができることは何かを考え
 ましょう」
 という言葉を思い返しました。大

事なのは、見ているだけではなく、
 自分ができることは何かを考え、
 行動することなのだと思ふさまし
 た。
 高齢者の方は家族や周りの人に
 めいわくをかけたくないという思
 いから、痛みや苦しみをかまなし
 てしまい、
 「大丈夫ですか」
 と心配して声をかけても、
 「大丈夫」
 と答えることが多いと聞きました。
 だからこそ、相手の表情や様子を
 よく見て、本当はどうしてほしい
 のか、どんな手助けを必要として

いろのかたど、相手の立場にな
て考えてあげる事が大事なのだ
と思いました。

これは、相手が高齢者の方でな
くても同じことが言えます。相手
がだれであつても、相手の気持ち
を考え、そして行動できる人間に
なつていきたいとぼくは思いまし
た。



ハートのプレゼント

藤崎中央小学校 四年

三上 千晶

一四年生はチャレンツ学習で「福

祉」というテーマに取り組んでい

ます。その中で「高齢者」につい

て考えました。

まず授業で、年を取ると若い時

とくらべて、体にどのような変化

があらわれてくるのかを考えまし

た。そこで出てきた意見は、もの

が見えづらくなる、耳が遠くなる、

足こしが弱くなる、力も弱くなる

など、困ることや大変なことばか

りでした。

次の日、わたしは一緒にくらし

ているおばあちゃんに、

「年を取ってからは、どんなことが

大変になった？」

とたずねてみました。すると、

「いつもメスがネを持ち歩かなけれ

ばいけないのが不便だな。それ

から、移動するのもつらいし、

特にすわる時や立ち上がる時が

大変だ」。

と教えてくれました。ふだん一緒

にいる時は、どこも大変なところ

がない元気なおばあちゃんだと思

っていたけど、実はわたしが気づ

かながただけで、いろいろつら

い思いをしていたのだと知りまし
た。
数日後、学校で高齢者ぎじ体験
を行いました。社会福祉協議会の
方から、高齢者の方の身体の特
点について説明がありました。
以前、わたしたちが授業で話し合
いをした時に考えたことと特
うは似ていました。しかし、わた
したちが考えもしなかつた変化も
あることが分かりました。
それは、心の特ちようです。身
体機能のおとろえから外に出るこ
とが少なくなったり、夫や妻、友
人と死別したりなどが原因で、内

向的になり何かをやらうという意
欲も低下してしまう人がいるとい
うことです。年を取ると身体だけ
ではなく、心も弱ってしまうこと
があることを、わたしはこの時初
めて知りました。
そして、ふと一緒にくらしてい
るおじいちゃん、おばあちゃん
のことを考えました。小さいころは
おばあちゃんとお紙をしたり、
おじいちゃんと犬のさんぽを一緒
にしたりしていたけど、最近
部活動や習い事などで自分
がしなくなってしまう、小さいころ
にくらべるとふれ合う時間が少な

く^っな^って^っいるなと感じました。
そして、十一月の末ころに、四
年生は老人ホーム「さんふじ」を
ほう問することになりました。ほ
う問したら、ホームにいる方と交
流する時間があると聞き、わたし
たちのグループは、おり紙を一緒
にやることにしました。小さいこ
ろおばあちゃん^やとや^っっていたので
ホームの高^こ齢^{れい}者^{しや}の方たちもよろこ
んでくれるかなと考えたからです。
「さんふじ」をほう問すると、
しせつの方が中を案内してくれま
した。歩いていると、ホームに來
ているおじいさんやおばあさんた

ちに出会いました。わたしが笑顔
で手をふると、おじいさんやおば
あさんたちも笑顔で手をふり返し
てくれました。前に高^こ齢^{れい}者^{しや}の方は
心も弱^よってしま^っう人もいると勉強
したので、元^{もと}氣^きのない人が多いの
かなと思^っていました^が、意外に
笑顔で元^{もと}氣^きそうだった^{ので}、何だ
か安心しました。き^っと、しせつ
の方々が高^こ齢^{れい}者^{しや}の方にやさしく声
をかけたり、せ^っしたりしている
からなのだと思^っいました。
見^み学^{がく}や説^{せつ}明^{めい}が終^はわり、交^{こう}流^{りゅう}の時
間^{かん}となりました。じやんびしてい
たおり紙で一緒にハートをおるこ

とにしました。おり方をわたした
 ちが教えながらやってみましたか
 やはり手の力が弱っているのか、
 きちんとおることに苦労している
 ようでした。わたしは
 「おっ、あげます。」
 と声をかけて、おばあさんのおり
 紙を代わりにおっ、あげました。
 ハートが完成し、そのハートをプ
 レゼントしました。とてもよろこ
 んでくれて、わたしも心があたた
 かくなりました。
 今はわたしのおじいちゃんやお
 ばあちゃんもまだ元気ですが、いつ
 か「さんふじ」に来ている高齢者

の方たちのように手助けが必要な
 時が来るかもしれないので、その
 時はチャレンジ学習で勉強したこ
 とを思い出してせっしてあげたい
 です。

